

【議 事】

| | |
|-----|---|
| 事務局 | 【姫路市市民活動・協働推進事業計画検討懇話会について説明】 |
| 座長 | 計画案について議会での説明はいつか。 |
| 事務局 | 12月に開催する議会の委員会にて、パブリックコメント案として説明する予定。 |
| 事務局 | 【姫路市の市民活動の状況について説明】 |
| 構成員 | ボランティア活動に関するアンケートについて、個人が21.9%、団体が50.5%という回答率になっている。回答率はいつもこれぐらいなのか。 |
| 事務局 | 2年に1回、市民活動・ボランティアサポートセンター（以下、センターと表記）登録団体と個人登録ボランティアを対象に実施しているアンケートだが、回答率は例年と変わらない。 |
| 構成員 | 現計画では、職員意識調査により意識向上を図るということだが、資料の職員意識調査は職員全員を対象としたのか、それとも対象者を抽出して実施したのか。 |
| 事務局 | 抽出でなく職員全員を対象に実施したもので、全員が閲覧できる庁内掲示板に掲載し回答を促したが、任意のため、意欲のある職員でないと回答してくれない。何度も再掲示するなど積極的に働きかけたが、回答率は前回と変化がなかった。職員の意識の低さが明確となった。 |
| 構成員 | 市職員の意識向上を図る根本の取り組みにもかかわらず、回答率が非常に低い。率先してアンケートに協力してもらえるよう努めてほしい。 もう1点、アンケートについて、結果報告だけでなく、わかった課題に対しての市としての対応、検討内容などを具体的に示してほしい。 |
| 事務局 | 職員意識調査は、次回以降、項目を絞る、筆記部分を削るなど、短時間で回答できるような工夫をし、回答率の向上を図りたい。協働の必要性に理解がある職員より、そうでない意識の職員に対してのアプローチの仕方を考える必要がある。 |
| 構成員 | 管理職の方、管理職以外の方の回答の比率などはあるか。 |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | ある。回答者の年齢は、予想よりも若い職員が多い。性別は、男性職員の回答が多く、女性職員へのアプローチも必要と考えている。 |
| 構成員 | 女性職員の意見が増えると、また違った結果になる。 |
| 構成員 | アンケートの有効回答率が、職員が 18.9%、ボランティア団体でも 50%だが、電子申請システムや調査票による調査とは、具体的にはどのような方法か。回答率が 20%程度で意識を把握できるのか疑問である。 市民活動や協働を進めていく際の意識を調査するアンケートに回答が少ないことが、意識が低いことの現れだ。職員はある意味、参画する義務がある立場であり、もっと強い力で回答させるべきだ。関心を持っている職員のみでの回答だと、内容に偏りがある。 |
| 事務局 | センターのアンケートは、団体・個人双方とも、紙で配布をした上で、QR コードも載せている。返信用封筒を同封し回答を促しているが、電子申請に馴染んでいない方もおられるので、電子申請でも回答できるようにしている。 |
| 構成員 | 「出しなさい」といった働きかけをしているのか。任意という形ならば、残念ながら出でてこないということにならないか、その結果が 20%の回答率だ。 |
| 事務局 | 職員意識調査では各職員のパソコンから電子による回答を勧めているが、強制的に回答させるのは難しいと考えている。 |
| 構成員 | 回答させるよう強い働きかけが必要ではないか。本当の意識を調べるためには、全体数、回答率を上げないといけない。 |
| 事務局 | 担当局内の職員には回答するよう働きかけたが、他の部局に対しても強制するのは難しい。回答数確保のため、今回は職員間のつながりで直接お願いした部署もある。 |
| 構成員 | 前回はアンケートについての意見が出たが、それについてフィードバックができていない。回答率の低さより問題だ。 意識調査について、例として、今回はこの部局だけに絞る、などの工夫が必要ではないか。回答者は意識が高いはずなのに、資料では協働についてあまり知らないという回答が多い。市民から見たら寂しいことだ。一方で、アンケート手法は |

| | |
|------------|--|
| | <p>難しい点もあり、商工会議所が実施する景気動向調査では、ある程度の回答率だが、信用金庫などが行う調査では、98%や100%という数字となる。方法論の問題だと思う。</p> |
| <p>構成員</p> | <p>センターに登録していない団体は、アンケートの対象外となっている。ボランティアの実情を把握するアンケートだが、登録団体のみの回答では、回答内容が偏ると思う。登録せずにボランティア活動をしている団体や個人に対して、市はどのような意識を持っているのか。センターに登録するメリットは、コピー機が無料で使える、会議室の減免などだが、登録団体でない人たちもフォローしてほしい。また、ボランティア手帳の発行がなくなり、各ボランティア団体の連絡先や活動内容を知るすべがなくなっている。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>センターでは、登録団体だけでなく、それ以外の活動団体や個人についても支援を行っている。登録を推進するため、活動室や印刷室の利用、センターが実施する年6回程度の講座や交流事業は、登録団体に優先的に案内し、参加できる仕組みとしている。</p> <p>登録せずに活動している方のフォローは、センターの運営会議でも意見があったので、同様にご意見があればいただきたい。</p> <p>また、センターでは、現在、連携や交流に力を入れており、市民会館で実施していた「ひめじおんまつり」について、会場を駅前に移し、登録団体同士だけでなく、広く市民や企業の方、様々な団体が交流できる形の「ひめボラ市」として、新たに開催した。そのような場をより多く持つことが第一歩と考えている。</p> |
| <p>構成員</p> | <p>センターの登録団体と地域団体では考え方が少し違う。地域団体は活動内容が一つに特化していない。福祉活動など様々な活動を、企画など一から全部しないといけないが、自分たちのしたいことをしているセンター登録団体は、センターの支援を受けている。私たちは地域や誰かのためにしか活動できていないが、同様のフォローがあれば、地域の奉仕活動もさらに広がると思う。</p> <p>しかしながら、センター登録団体の活動については、活動・交流の場としてニーズがあり、市民が生きがいを感じられる場なのであれば効果的と考えており、ボランティア通信について、登録団体の活動内容を詳しく掲載するなど内容が充実することを願っている。</p> |
| <p>構成員</p> | <p>ボランティア手帳というものがあるのか。</p> |

| | |
|-----|---|
| 構成員 | 以前、ボランティア団体向けに配布されていた。今は、社会福祉協議会（以下、社協と表記）が発行しているもののみで、福祉団体が主に掲載されている。 |
| 構成員 | アンケートの回答を参考に、連携や一緒に活動できる可能性を探りたい。自治会でも婦人会でも老人会でも、他の団体が似たような活動をしているならば、ぜひ連携してみたい。アンケートの回答者名を掲載できないか。 |
| 事務局 | センターでは、相談があれば団体同士のマッチングを行っている。例えば、子ども会の各支部からの要望を受けて、それに沿ったボランティア団体を紹介するなどの支援も行っている。また、センターのホームページでは、各ボランティア団体が作成したページもあり、団体の活動内容や連絡先を掲載しているので、直接、連絡を取ることができ、連絡先が不明であれば、センターから繋ぐこともできる。 |
| 構成員 | そのような対応は良いが、回答者の情報も含めて、報告書に記載してもらえるか。 |
| 事務局 | 回答者名を非公表とするほうがアンケート回答率は高くなる傾向がある。名前の記入欄は設けているものの、回答者名は公表しないという前提でアンケートを実施しているため、資料として出すのは難しい。 |
| 構成員 | 他の会議でも、アンケート回答率を上げるため回答者に御礼を渡すなどの意見が出るが、姫路市のアンケートは基本的に匿名で実施していると聞いている。 |
| 構成員 | 個人ではなく、団体でも難しいか。 |
| 事務局 | 団体でもセンターに対する不満もあると思われる。記名回答にすると、そのような意見を書きにくいと思われるので難しい。 |
| 構成員 | 強制ではなく、名前を書ける人は書いたらいいということ。 子ども会の加入者数は、大幅に減少している。平成 22 年には加入者数が約 45,000 人だったが、現在は約 13,000 人、子どもも指導者も含めた数である。当時は、姫路市の児童数が約 50,000 人だったが、現在は子どもの数がかなり減少している。地域で子ども会の活動を継続する場合、他の団体と連携しないと難しい。今も、自治会や老人会と一緒に活動することにより地域活動を担えている。我々としては、活動の幅を広げたいので、アンケート結果を参照し、他団体との連携や、一緒にできる可能性を模索したいので、アンケート内容に関連した様々なボランテ |

| | |
|-----|--|
| | <p>ィア団体の名前や、団体の活動内容について情報がほしい。</p> |
| 事務局 | <p>センターのホームページは、登録団体の一覧をPDFで掲載しており、団体名及び活動内容を紹介しているのでそちらを参照してほしい。</p> |
| 構成員 | <p>紙ベースのものはないか。配布は難しいのか。</p> |
| 事務局 | <p>印刷物としては発行していないが、スマートフォンやインターネットで閲覧できる。紙に印刷して渡すことはできる。</p> |
| 構成員 | <p>一覧表があれば、ぜひいただきたい。</p> |
| 事務局 | <p>印刷して送付したい。近年、ボランティア団体からも地縁団体とのマッチングについての要望が見られるようになった。地域の川のごみ拾いを、自治会からの要望によりボランティア団体が一緒に活動した例もある。地域の中にボランティア団体が入っていくという取り組みを進められたらと思う。</p> |
| 構成員 | <p>テレビで取り上げられていたが、自治会の役員を親子で担っているという地域があり、自治会の加入率が上がるという効果がみられたという。地域によって多様な自治会のやりかたがあり、それを子ども会に置き換えれば、いろいろできる。各種団体の活動内容は、多岐に分かれているが、いろいろなところに手を伸ばして活動を広げていきたい。</p> |
| 座長 | <p>アンケートなど、団体あるいは市民の意識をどう把握していくかは計画において重要なことである一方、測り方をどうするかが問題。職員意識調査における対象の4,000人は、消防職員も含めての数字か。</p> |
| 事務局 | <p>含んでいる。</p> |
| 座長 | <p>所属部署によっては協働について意識の差もある。そもそもそういう職員にアンケートを取ることが効果的なのか。実態を把握する手法を検討する必要がある。偏った20%よりサンプリングされた100の方が結果は正確になると思う。正確なアンケートをとっているか、その方法が問題。いただいた意見も踏まえ、次期計画の中で、どのような数値を取るのかも含め、事務局で検討してほしい。また、アンケート結果をどのように施策に生かすかも、ご意見いただいた。結果</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>を踏まえて、どう施策に生かし、新しい仕組みを作っていくかどうかも論点。次の議題に移りたい。</p> |
| 事務局 | <p>【姫路市市民活動・協働推進事業計画進捗状況について説明】</p> |
| 構成員 | <p>「行政職員の意識の向上」として、中間評価でもアンケートを実施し、情報収集を行った、とある。このような取り組み自体は理解できるが、先に意見が出たように、アンケート結果は非常に低い数値なので、Aという評価は正しいのか。また、4-①-2 市政出前講座の実施について、校区登園でも活用するよう周知しているが、十分利用されているのか。以上2点について聞きたい。</p> |
| 事務局 | <p>第4次計画の進捗状況評価として、アンケートの実施回数や、講座の開催数などをそれぞれの事業での目標値としており、それを達成すれば評価が上がる。次期計画では、事業の評価手法についても検討したい。</p> <p>また、職員意識調査の進捗状況評価は、実施したことに対する評価で、内容や結果が芳しくなかった部分は、進捗状況評価とは別で考える必要がある。</p> <p>市政出前講座は、一部開催数が目標に達していないが、開催希望があった際には、可能な限り実施できるよう各所属と調整している。項目によって開催頻度に差があるが、利用がない講座は廃止、開催希望があるものは増やすなど、市民ニーズに沿えるよう、見直しながら実施していきたい。</p> |
| 構成員 | <p>評価において、情報収集にとどまるところに疑問を持っている。実施効果についても記載しておくべき。そのような視点が欠けている。</p> |
| 座長 | <p>この評価は、内容についての評価ではなく、事業が順調に進んでいるかどうかという評価になっている。</p> |
| 事務局 | <p>事業計画による目標は、事業ごとに設定した数値目標であり、講座を何回実施する、ボランティアの登録を何人にする、などの数値が上がればS、上がっていないければCという評価になっていく。</p> |
| 座長 | <p>評価がAでも、中身がよかったかどうかは別であるということ。目指すべきことがどこまで進んでいるかなどの観点も重要だ。</p> |
| 構成員 | <p>進捗状況についての資料に、実施に関する具体的な数字や結果が掲載されていない</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>いので、何をもってA判定なのかわからない。また、外部評価がないところも懸念点。例えば、講座を3回実施した、で満足しがちになるが、大事なのは、参加者にどのような効果があったのかということ。目標値を資料に載せてほしい。特に、公式LINE、Facebook、インスタグラムなどは、具体的に何人に届いているのか、フォロワー数が何人増えたのか、一定数の「いいね」があるか、数字がないと理解しづらい。</p> <p>職員意識調査については、若手職員、課長・部長級など、どこで一定数のサンプルを取るかが重要。さらに年齢層や職種により、質問内容を変えるなども必要ではないか。職員の意識向上のため、新採用職員を対象に研修していることはわかるが、部長や課長には実施していない。案外、管理職の意識が欠けているから、若手職員から見ると協働が進んでないと認識しているのかもしれない。理解が進んでいないのか、必要ないという認識なのか、クロス集計が必要。その課題について、次の計画に反映するのであれば、調査手法からより分析・検討しないと、重点項目や、具体的な数字が見えてこない。計画の進行管理の手法については、十分に見直す必要がある。5年間という長いスパンとなるので、途中で数値目標を変えるなど、臨機応変に進める必要がある。</p> |
| 座長 | 外部評価について、次期計画でどうするかは事務局で検討いただきたい。 |
| 構成員 | 行政は、市民活動について、ツールやサポート、セミナー開催などでフォローしようという立場で、サポートに徹していると感じる。市民活動が停滞している中、全国の市民活動の革新的な事例などの情報を行政が発信し、協力を呼びかけるなど、行政と市民がもっと相互にかかわり合うことが必要で、行政から創造的な提案やクリエイティブな情報提供があればいいと思う。 |
| 座長 | 行政は、創造的なことが難しいかもしれない。 |
| 構成員 | 行政から情報提供してもらっただけでもいい。 |
| 座長 | 情報集約や共有はどのように行うか、政策を進める上で非常に重要である。 |
| 構成員 | 他市の事例もこれから調査研究を、との記載があるが、先進的な取り組みなどを取り入れたりしているか、それとも姫路市独自で実施しているのか。 |
| 事務局 | ボランティアについては、センター職員が他市への視察や研修等に参加し、情報 |

| | |
|------------|--|
| | <p>共有を図っている。他都市の事例を参考に、「ハジメのイッポ（通年のボランティア体験メニュー）」など、新しい方がボランティアを始めやすいように取り入れた事業もあり、広くアンテナを張って情報収集に努めている。また、市民活動推進課では、自治会を中心に補助金等により支援しながら、他市町との情報交換や照会などにより動向を把握しているが、姫路市は自治会加入率が全国的に見て高く、他の市町村からの視察も多い。先進事例としてどこを目標にするか難しい点もある。</p> |
| <p>構成員</p> | <p>資料の「担い手づくり」のところにあり、新任自治会長への説明会は、内容が現場のニーズとずれている。組織をまとめる手法などの知識がほしい。担い手については、社協の支援を受け4年間の計画で実施しているが、その効果がわかりにくい。担い手とは、後継者なのかボランティアなのか不明瞭な点がある。</p> |
| <p>構成員</p> | <p>社協が実施する「担い手確保育成強化事業」は、職員間で振り返りを行っているので、結果は地域にお返ししたい。地域の活動では、気軽にでき、何をするか明確な活動に対して参加が多くみられる。例えば、コミュニティ食堂について募集を出すと、たくさんボランティアの参加があったなど。見る人がリアルに何をするか容易に想像できたことが理由と思われる。</p> <p>情報発信を工夫することで、ちょっと敷居を乗り越えて参加いただけるなどの手法を共有したい。また、後継者についても、他都市の情報収集などを経て内部で協議している。まとめれば、何らかの形で地域に情報提供したい。</p> |
| <p>座長</p> | <p>人口減少社会において、人材確保は喫緊の課題。次期計画の中でも重要となる。次の議題について事務局説明をお願いしたい。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>【第5次姫路市市民活動・協働推進事業計画（案）について説明】</p> |
| <p>構成員</p> | <p>アンケートでは、高齢化、人材不足などネガティブな意見が多い。長く活動していくにあたっての問題が表面化しているが、自身の活動では、若い人の参加も多く、楽しかったというポジティブな意見が多い。今後の計画案に、新しい市民活動の創造など、発展的な項目がないのが気になる。</p> <p>個人的に「#ひめじでごみひろい」という団体の活動に参加しており、活動後、喫茶店で茶話会をしている。その中では、若い方を中心に、新しい活動のアイデアや意見が活発に交わされている。そのようなニーズを新しい市民活動という形で拾ってもらえるといい。</p> |

| | |
|-----|--|
| 座長 | 世代が違くと全く意見が違ふ。そういう人がどう交流していくか、非常に重要だ。 |
| 構成員 | 計画の中でのボランティアの定義は、一般的なボランティアなのか、住民組織、自治会長などの活動なのか。計画で協働を進めるのは、どちらがメインなのか、あるいは並列なのか。 |
| 構成員 | 若い人は家事、仕事と多忙で無償の活動に関心がない。私の住む地区でも、現在は役員経験者の有志が集まって活動している。会員も減っており、何年か後に組織がなくなる可能性があるものの、交通遺児のサポートなど大切な活動もある。地域活動は民生委員、自治会、老人会、さらにスポーツクラブ 21 など各種団体の様々な活動が複合し成り立っているので、役員の1年や2年の任期で進めていくのは難しい。少しずつ若者が活動に加わっているものの、彼らが自分たちの後任となり、各種団体と手を取り合って活動を進められるか心配だ。行政職員が年1回でも活動に参加してもらえるようにしてほしい。 |
| 構成員 | ユニークな市民活動には自発的・自主的に集まるが、自治会など地域団体では、意欲のある人が役員になるのではなく、役員の押し付け合いになっている現状がある。各種団体における役員の選挙について、互選にするなどの決まりを市が作るなどにより、担い手不足の解消につながると思う。 |
| 構成員 | 従来はボランティアといえば無償という概念があったが、近年はボランティアも有償で行うもの、と意識の変化が見られる。アンケートでは、資金面が活動のネックになっている団体が多くみられるが、このような意見について、市は何か手立てを考えているか。アンケートで表面化した課題の解決策など、団体が安心して活動に取り組めるような支援はないのか。 |
| 事務局 | 計画におけるボランティアと地域活動は両輪と考えて、協働推進に取り組む。また、ボランティア団体への資金面の支援について、提案型協働事業をはじめ様々な事業に対する補助金により支援しているほか、センターでは、市を始め、県や企業の補助金制度について情報提供を行っている。また、ひめボラ市では、従前ではできなかったボランティア団体による活動に則した販売行為ができるようになった。資金を確保する一つの方法として活用してほしい。アンケート結果を踏まえ、できるところから改善したい。 |

| | |
|-----|--|
| 構成員 | アンケートによりボランティアの困りごとが表面化しているので、それらに対し適切なアドバイスや声を拾うなどの対応をお願いしたい。団体の納得や活動への意欲につながると思う。 |
| 事務局 | アンケートは任意で団体名を記載できるようになっているので、集計の際、活動の困りごとなどがわかれば、その都度連絡をとり、個別に課題解決を図っている。センターでは、アンケートの結果を踏まえ、事業を増やしたり、内容を充実させるなど市民活動の推進に取り組んでいる。 |
| 構成員 | 市民活動や協働推進における AI、ICT の活用とは、どのようなイメージなのか。 |
| 事務局 | 市民活動におけるデジタルの活用を進めようとするもの。特に地域団体では、役員同士でもデジタルツールを使っていないところも多い。一方、若年層は電話だけのやり取りに負担を感じる傾向がある。地域団体では、若年層の担い手サポートや役員の負担軽減に、ボランティア団体では、デジタルでの情報発信や仲間づくりなどに AI や ICT を活用してほしい。 |
| 構成員 | 団体によっては、今も紙で帳簿を付けていたりする。AI の利用率が諸外国に比べて利用率が低いというデータも見たことがある。市民全体に対して活用を進めていくということか。 |
| 事務局 | この計画は、市民活動とボランティア活動に特化した計画であり、姫路市民全体での活用はデジタル推進部門の所管となる。ここでは、AI や ICT を地域団体やボランティア団体の活動に活かしていくという意味である。 |
| 構成員 | ボランティア団体の名簿、活動内容、センターの活用方法など、改めて情報共有が必要だと感じた。また、交流が足りないという意見もあったので、本日のように課題を共有する、交流するような場が別の機会でも必要と感じた。 |
| 座長 | 市民活動とは、協働とは、についてあらためて整理する必要がある。市民も行政もどちらもできる領域が協働で行える領域となるものの、明確な線引きは難しい。協働をどの領域でどう進めるのか、市民活動や協働の整理と含め、新たな計画で定義づけして進めていくとよい。 (終了) |